

岡田 絢子 『子育て支援について』

【研究テーマについて】

少子高齢化に伴い、子育て支援の重要性が近年社会一般に認識されるようになりました。政府も企業も NPO も子育て支援に取り組み始めています。諸政党も選挙の時にはいっせいに子育て支援策を掲げて票の獲得をねらっています。なかには 5 千円の商品券を渡そうという自治体まで現れました。しかし、それらの子育て支援は子育てをしている親にとって、本当に意味のある支援になっているのでしょうか。少子化に歯止めをかける有効な対策になっているのでしょうか。おそらく、誰もが疑問に思っている問題でしょう。

筆者の岡田さんは、身近で子育てをしている人の苦勞を目の当たりにして、子育て支援の必要性を実感し、研究テーマに選びました。あとがきで「子育て支援を進めるためには、子育ての経験を持つ人の意見を聞くことが必要であると思った」(18 ページ)と述べていますが、この論文全体も子育てをする人の立場に徹して、現在進められている子育て支援策に対する批判を展開しています。自身の問題意識に忠実で、しかも時宜を得た良いテーマを選んだと思います。

この論文では、子育て支援の主体について行政・企業・地域それぞれにバランスよく目を配り、各主体がなすべきことを丁寧に注意深く検討していることも、好ましい印象を受けました。行政に対しては経済的な支援とともに、全ての子どもに保育サービスを保障することを求め、企業に対しては男性の育児休業を保障することを求め、そして地域においては NPO に対して地域単位のきめ細かい保育サービスを求めています。また、これらの検討がフランスの先進事例からヒントを得ているということも、この論文の優れたポイントだと言えます。

この問題を発展的に考えれば、社会政策・社会福祉的な観点のみならず、一方では行政評価論（行政の子育て支援政策を誰がどのように評価するのか）として捉えられますし、他方では企業社会責任論（従業員の福利厚生として育児休業をどのように保障するか）としても、あるいは NPO 経営論（子育て支援 NPO の経営）やソーシャルマーケティング（社会一般に対して子育て支援の必要性を啓発し、問題解決に至る）など多様な視点で考察を深めることができると思います。

【研究方法について】

子育て支援対策の現状を丁寧に調べ、要領よく整理したことが良かったと思います。

また、フランスの例を出していますが、海外の事例をヒントに日本の子育て支援のあり方を検討し、有効に結論を導いていることも、この論文の優れた点です。

子育て支援策に対する筆者の批判も述べられてはいますが、実際に子育てをしている人たちの意見もあれば、より説得力が増したことでしょう。